

 水道ホットニュース	<p>(財)水道技術研究センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F TEL 03-3597-0214, FAX 03-3597-0215 E-mail jwrchot@jwrc-net.or.jp URL http://www.jwrc-net.or.jp</p>
---	---

欧州における最近のクリプトスポリジウム症発生状況 (その1)

(はじめに)

水、特に水道水に起因するクリプトスポリジウム症の集団発生については、日本では1996年6月の埼玉県越生町における事例がその典型ですが、海外でも集団発生の報告事例がみられるところです。

特に、欧州におけるクリプトスポリジウム症の発生に関する情報については、「欧州疾病予防管理センター (ECDC : The European Centre for Disease Prevention and Control)」がホームページ上で「Eurosurveillance」と題する刊行物の中で公表しているところです。

ここでは、当該ホームページから、欧州における最近のクリプトスポリジウム発生状況について紹介することとします。

なお、詳細については、直接「Eurosurveillance」のホームページを参照してくださるようお願いいたします。また、以下の翻訳に誤り等がありましたら、ご指摘いただければ幸いです。

(出典) Eurosurveillance ホームページ (月報)

<http://www.eurosurveillance.org/em/index-02.asp>

1. 「Eurosurveillance」について

「Eurosurveillance」は、スウェーデン国ストックホルムにある「欧州疾病予防管理センター (ECDC)」が発行しており、欧州における第一線の科学的な刊行物であるとともに、感染症の予防・管理等に貢献している。

「Eurosurveillance」は、週報 (速報)、月報 (詳細分析・予防策など)、旬報 (月報・週報を編集) の3種類の形式が利用可能である。なお、公衆衛生上の早急な対応のため、緊急伝達が必要な場合には、「e-alerts」が用いられることもある。

「Eurosurveillance」は、誰でもアクセスでき、読者・著者とも無料で閲覧できる。現在、1万人以上の電子読者、そして、2006年にはホームページに80万件のヒットがあり、6千部を超える印刷物を発行している。

2. 欧州におけるクリプトスポリジウム症に関する監視及び発生状況

- Surveillance report (2007年5月) より -

2-1 2005年におけるクリプトスポリジウム症の国別患者数及び発生率

クリプトスポリジウム症は、欧州連合 (EU : European Union) レベルにおいて届出を要する疾病であり、欧州監視ネットワーク (the European Basic Surveillance Network) を通じて監視データが収集される。

2005 年における欧州の疾病状況によれば、16 カ国から患者数 7,960 名のクリプトスポリジウム症が報告されている。

国々によってクリプトスポリジウム症の発生率にかなりの差がみられるが、全体としては、人口 10 万人当たり 1.9 患者の発生であった。

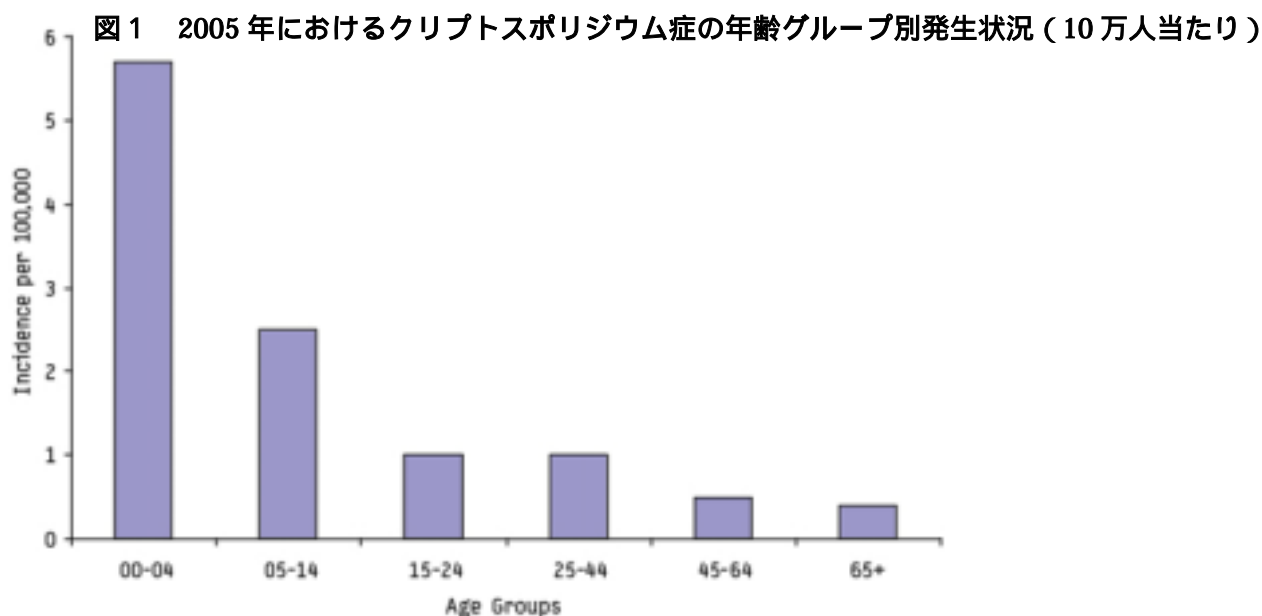
表1 2005 年におけるクリプトスポリジウム症の国別患者数

国名	確認された患者数(人)	人口 10 万人当たり患者数
ベルギー	357	3.4
キプロス	0	0.0
チェコ	1	0.0
エストニア	0	0.0
ドイツ	1,284	1.6
ハンガリー	0	0.0
アイルランド	565	13.7
ラトビア	0	0.0
リトアニア	0	0.0
マルタ	6	1.5
ポーランド	0	0.0
スロバキア	0	0.0
スロベニア	9	0.5
スペイン	108	0.3
スウェーデン	69	0.8
英国	5,561	9.3
合計(平均)	7,960	1.9

(注)人口 10 万人当たり患者数は、確認された患者のみを対象。

2 - 2 2005 年におけるクリプトスポリジウム症の年齢グループ別発生状況

年齢別患者数について報告があったのは、16 カ国のうち 5 カ国だけであるが、5 才未満が「10 万人当たり 5.7 患者」、5~14 才が「10 万人当たり 2.5 患者」と、高齢者グループの「10 万人当たり 1 患者未満」と比べてリスクが高いことが明らかとなっている。(図 1 参照)



2 - 3 2005年におけるクリプトスポリジウム症の季節別発生率

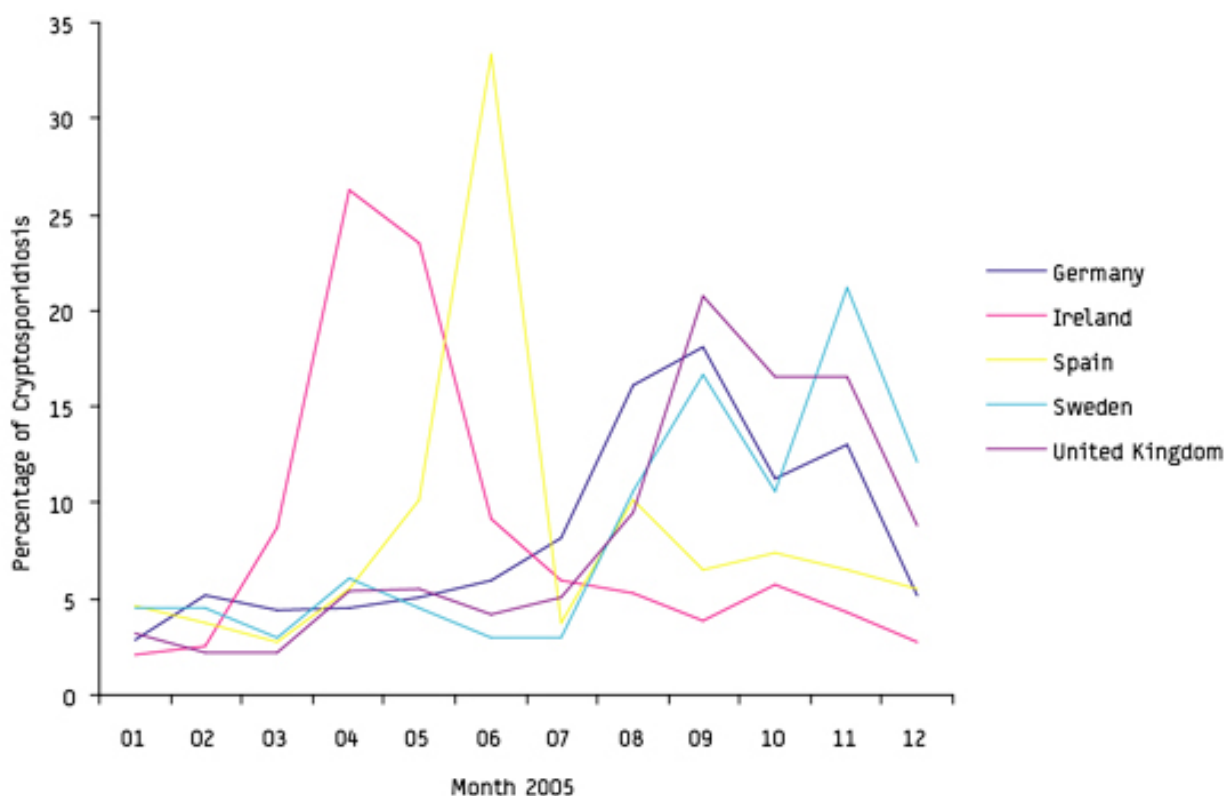
図2は、国別にみた、月別のクリプトスポリジウム症患者数の状況を示したものである。なお、この図は、単年におけるデータであり、必ずしも一定の季節的な傾向を示すものではない。

ピークは、多くの国では秋にみられるが、アイルランドでは春に、スペインでは夏にみられる。季節的な傾向を確定するためには多年にわたるデータ観察を必要とするが、欧州レベルではそのようなデータは利用が可能となっていない。英国とスウェーデンでは、春に発生率が低下している。

イングランド・ウェールズでの資料によれば、春におけるクリプトスポリジウム症の発生は「*C. parvum*」が主な原因であり、秋の発生は「*C. hominis*」が原因であることが多いということが示唆される。

イングランド・ウェールズにおけるクリプトスポリジウム症の季節別発生率は変化しており、春のピークは2001年以降大きく低下している。秋の発生は、休暇中の旅行、水泳プールが原因の可能性もあるが、根拠は貧弱である。

図2 2005年におけるクリプトスポリジウム症の季節別発生率



*N=6,607 for which seasonal data were available.

2 - 4 最近における水道水を介したクリプトスポリジウム症の発生事例

欧州における消化器系の突発的感染症事例において、「水系」の割合は少ない(2%)とみられている。一方、水系感染症の報告数は大きく変化しており、上下水道システムの質などに影響されていると考えられる。

ここでは、最近における水道水に関連したクリプトスポリジウム症の発生事例を紹介する。

(1) アイルランド西部の Galway (ゴルウェー) 地域における事例 (2007 年 1 月 ~)

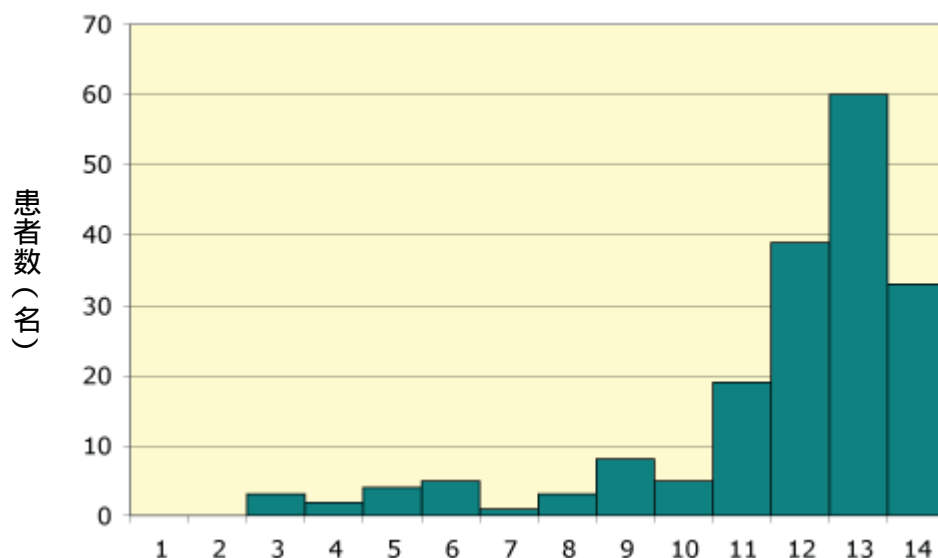
2007 年の初め頃、Galway 地域 (Galway 市及び Galway 郡) においてクリプトスポリジウム症の発生が報告された。その原因としては、1 月下旬から 2 月にかけて農家が行うスラリーの散布後、農地からの流出によって Galway 郡の西部にある大きな湖である「Lough Corrib 湖」が汚染されていることが示唆された。

汚染された水による疾病の拡大を防止するため、アイルランドの公衆衛生当局は、3 月 12 日の週に事故対応チームを立ち上げ、3 月 14 日に「水を煮沸」するよう告知した。2007 年 4 月 14 日現在、患者が 182 名であることが発表された。患者の性別内訳は、女性が 93 名、男性が 85 名、不明が 4 名であった。

182 名の患者のうち、90 名の患者は Galway 市の住民であり、他の 4 名の患者は他の住所であったが Galway 市の水道水を利用して居た。36 名の患者は市の郊外に住んでおり「Lough Corrib 湖」を水源とする他の 2 つの水道水の供給を受けていた。そして、残りの患者は Galway 郡の他の地区に住居していた。

全ての年代グループが罹患し、40 名の患者 (子供が 24 名、大人が 16 名) が入院した。

図 3 アイルランド「Galway 地域」におけるクリプトスポリジウム症患者数の週別報告 (2007 年 1 月 1 日 ~)



クリプトスポリジウム症患者数の週別報告 (2007 年 1 月 1 日 ~)

(出典) <http://www.eurosurveillance.org/ew/2007/070503.asp#3>

(文責) センター常務理事兼技監 安藤 茂

配信先変更のご連絡等について

「JWRC 水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記まで E-メールにてご連絡をお願いいたします。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F (財)水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : jwrchot@jwrc-net.or.jp

TEL 03-3597-0214 FAX 03-3597-0215

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。